

教員コメント

科目名	11052	GUIプログラミング
-----	-------	------------

①自己評価

この科目は月曜1時限の時間帯につき、遅刻者は多いものの出席者はおおむね固定しており、毎回の授業の出席者数は履修登録者の70%程度です。今回のアンケート結果において、話し方の聞き取りやすさ・理解度確認・授業に対する熱意や意欲の点においてはマイナスの評価は出ていませんが、私語の点で半数の学生が多いと感じ（(10)ア16.7%、イ33.3%）、私語対策があまりできていないと感じている点（(11)ウ30.8%、エ7.7%）に何らかの対策を必要としている学生が多い点に問題があると感じています。さらに2名（15.4%）があまり受講意欲のなさを感じ、4名がシラバスに対するマイナス評価をし（あまり役立たなかった、読まなかった）、1名（7.7%）がかなり分かりにくいと感じている点や3名（23.1%）があまり満足していないという点についても検討する必要があると感じました。また、難易度の評価についてかなりバラツキがありますが、この点については1年次に別の言語のプログラミングを受講して理解している人とそうでない人とのレベル差があることに起因するよう感じています。

②評価に対する教員の思い

この科目の特性上、実際に演習問題を通して理解をしてもらう時間を多くとるようにし、演習問題をしている間は友達との相談や互いに教え合うことを許しています。そのため少々の私語があっても問題はないと考えています。ただし、授業が中断するほど特定の学生が頻繁に質問をしてることがあり、それに対して何人かの学生から苦情を訴えられることが何度かありました。これに対しては質問内容が適切なものに対してはその場で対応し、度を超えたり質問内容が授業内容からはずれたりする場合には注意をして後から対応するように心がけてきたつもりです。シラバスを読まないという学生が過去に多かったことから初回の授業ではシラバスの内容を書いたプリント配布して説明をしているにも関わらず読んでいないという学生には、ぜひとも初回から遅刻をせずに出席してほしいものです。

③今後に向けての改善内容と方策

受講者全員の満足を得るような授業は、少々の授業改善ではなかなか改善されないようですが、継続的に、学生の興味をひいて学習意欲を高めるための工夫を行うことが今後の最重要課題だと考えます。そのためにも、特に以下の点に留意し工夫を行いたいと考えています。（1）私語対策：講義中の教室巡回を頻繁におこなったり、授業に集中させるような課題等を与えたりすることにより、授業とは関係のない私語を減らす工夫をおこなう。（2）受講意欲や満足度の向上のため：演習問題を課している間は質問に答えるだけでなく、できるだけ全員の学生とのコンタクトをとって、理解度や感想、意見などを聞き、今後への改善へとつなげる。

教員コメント

科目名	12052	経営情報システム論Ⅱ
-----	-------	------------

①自己評価

この科目のアンケート回答率が履修者数の50%を切っていますが、半数以上の学生がこの科目の受講をしなくなったというわけではなく、出席率が1/3以下の学生は25%程度であり、半数以上の受講生が中盤以降ほどほどに休んでいるために後期の後半の出席率が毎回50%程度という状況です。今回のアンケート結果において、前回（前期）に比べて少々よい評価が出ているものの全体的にマイナス評価が1/3程度あることに注意したいと考えます。その中で、特に評価の低いものは、難易度（(5)ア33.3%、イ55.6%）であり、少なくとも90%の学生は難しいと感じているという点です。一方、分かりやすさという点では（(6)ア22.2%、イ44.4%）であり、少なくとも2/3の学生が分かりやすいと答えています。ただし、やや分かりにくい（11.1%）、かなり分かりにくい（22.2%）がいることに注意が必要です。つまり、難易度は高いと感じているが、過半数の学生はまったく理解できていないわけではなくある程度分かりやすいと感じている一方、本当に分からないと感じている学生も3割程度はいると判断できます。アンケートの回答率分布表からは、各設問回答の相関関係は分かりませんが、あまり受講意欲がない（33.3%）、シラバスがあまり役立たない（22.2%）・読んでいない（22.2%）、授業が満足できない（(12)ウ33.3%、エ11.1%）などのマイナス評価があり、授業が分からないから受講意欲を失い、満足できないと感じているのかも知れません。

②評価に対する教員の思い

この授業は3年目の開講となり、年度ごとに授業の構成、進め方、難易度などを昨年の反省を行い試行錯誤しながら授業を進めています。でも、基本情報技術者試験の問題は解ける程度を目標としています。昨年度に授業の難易度が高いという評価が多かったので、テキストとは別に資料を配布したり、授業の最後に小問題を配布して自らテキストやインターネットを使って深く調べていくことによって関心を高めようと試みたり、次回の初めに問題解答の解説をおこなってみたり、授業に対する意見や希望、再度説明してほしいところのアンケートを毎回とったりして、改善を試みてきました。しかし、毎回の授業のアンケートではほとんど意見が書かれていることもなく、テキストも持っていない、あるいは持ってこない学生が相変わらず多数いるという現状でしたので、せめて決められたテキストは持ってきてほしいものです。

③今後に向けての改善内容と方策

今回のアンケート結果を分析し授業を振り返ることにより、少々の授業改善ではなかなか改善されたと学生は感じていないようですが、継続的に、学生の興味をひいて学習意欲を高めるための工夫を行うことが今後の最重要課題だと考えます。そのためにも、今後も以下の点に留意し工夫を行いたいと考えています。（1）簡潔明瞭な説明・解説：毎回の授業ポイントを絞り、学生の興味ある事例を提示した具体的な目標設定を授業開始時におこない、その時間のポイントとなる点を要領よく説明する。（2）学生とのコンタクト：講義中の教室巡回を頻繁におこない、各学生とのコンタクトを多くとることによってやる気のなさそうな学生の感想や意見を聞くと同時に、授業に集中させるような課題等を与えるようにする。（3）理解度の確認：毎回小テストをおこなう。

2010年度

教員コメント

科目名	13009	健康スポーツ演習
-----	-------	----------

①自己評価

授業への出席人数は、大体14～16名程度であった。半数が留学生、半数が日本人であった。学生の名前を覚えることが出来る人数だったので管理しやすく、あまり目立った私語もなく、スムーズに授業を進むことができた。留学生が集団で座り、ヒソヒソ話が窺えたが、特に問題ではなかった。

②評価に対する教員の思い

特になし。私語も少なく、授業はやりやすかった。

③今後に向けての改善内容と方策

次年度も今年度と同様、受講生の名前を覚えて接していくこと。

教員コメント

科目名	13011	生活の中の数学
-----	-------	---------

①自己評価

「経済統計入門」の問題として、私語に関する設問10の回答で、「ア.かなり多い」と「イ.やや多い」を合わせて、45%強に達していることが挙げられる。この数字は前期の「統計学入門」の7割に比べ低下しているが、まだ、静穏な環境で授業が行われているとは言い難い。難易度に関する設問4については、「経済統計入門」において「ア.かなり難しい」を選んだ受講生は1割未満であり、難易度は適度であると考えている。「生活の中の数学」では6割が「ア.かなり難しい」「イ.やや難しい」を選んでいて、特に「ア.かなり難しい」を選んだ学生が3分の1であるが、これについては来年度は全学的な対応が行われる。全体として、満足に感じている受講生が7割以上いる。今後もこの状態を維持していくよう頑張っていきたい。

②評価に対する教員の思い

想定外のマイナス評価は特になかったが、「生活の中の数学」でのアンケートの自由記述において、「生活以上の数式が出てきていると思う」との感想があった。授業で出てきた数式は、数学の内容でいえば連立1次方程式程度であり、十分日常生活レベルであると考えている。さらに、「生活」を「日常生活」ではなく、「社会生活」と考えれば、新聞などで見聞きする様々な出来事を理解する上で必要な数学のレベルは、もう少し上のレベルであると考えている。来年度は今年度の「生活の中の数学」で行ったレベルの数学は「基礎数学II」で対応し、「生活の中の数学」はもう少し上のレベルの数学を展開していく予定である。

③今後に向けての改善内容と方策

授業への参加態度に今以上に注意を払い、私語を含め、授業中の携帯電話の使用などを厳しく注意していき静穏な授業環境の維持に努める。同時に、ノートの使用を奨励し、予復習を行う学習習慣がつくように指導していく。数学についての難易度対策であるが、共通教育科目の中の導入基礎科目に「基礎数学I」、「基礎数学II」という科目が置かれる。4月当初にプレースメントテストを行い、その結果を基に数学が苦手な学生に対する対応がなされていく予定である。

教員コメント

科目名	13053	HTML演習
-----	-------	--------

①自己評価

本授業ではプログラミングの入門としてHPを作成するために必要とされるHTML、CSS、JavaScriptへ取り組んだ。基本的なタグの利用から実社会で作成されているテクニックを使い動的な授業中にHPを作成した。これを元に課題で学生達が個々に考えHPを作成したが、動的な素晴らしいHPを殆どの学生が作成する事が出来た。これにより殆どの学生が必要なときに自分のイメージしたHPを作成できる知識を得たと考えられる。評定平均から授業への出席率、意欲、理解度が4以上で高く学生自身も楽しく授業を受け満足していると考えられる。ただし、私語の多さについては評定平均 3.17と少し低いが、一番多い回答は「あまり多くない」で全回答中58.8%であり、私語対策についても「ある程度している」が全回答中59.3%を締めている。しかし、私語の多さ・対策について不満を持っている学生も26.6%おり、快適な授業環境構築を目指すために徹底した私語対策を行っていく。

②評価に対する教員の思い

③今後に向けての改善内容と方策

2010年度

教員コメント

科目名	14005	スポーツ文化史
-----	-------	---------

①自己評価

70名強の履修登録があり、私語対策をどのようにするかを考えた。履修人数に対して、教室の座席に余裕があったので座席指定にし、集団を作らせないようにした。「聞いて書く」ことを作業とし、書いたものを提出させ平常点とし、テスト時にも持ち込み可とした。それが要因かどうかはわからないが、私語の少ない授業となった。ただ、授業としては、これが大学の授業？というジレンマがある。あと、DVDが鑑賞できないことがあり、学生に迷惑をかけたことは反省点である。

②評価に対する教員の思い

書く量が多い、という意見があったが、それは、教員側のねらいであり、致し方ない。1年限りでは評価しにくいので、来年度も継続して実施したい。

③今後に向けての改善内容と方策

履修登録人数と教室の座席数の関係があるが、次年度も座席指定を試みる。視聴覚教室である限り、あらゆるDVDが鑑賞できるよう大学に改善を要望する。

教員コメント

科目名	14051	HTML演習
-----	-------	--------

①自己評価

本授業ではプログラミングの入門としてHPを作成するために必要とされるHTML、CSS、JavaScriptへ取り組んだ。基本的なタグの利用から実社会で作成されているテクニックを使い動的な授業中にHPを作成した。これを元に課題で学生達が個々に考えHPを作成したが、動的な素晴らしいHPを殆どの学生が作成する事が出来た。これにより殆どの学生が必要なときに自分のイメージしたHPを作成できる知識を得たと考えられる。評定平均から授業への出席率、意欲、理解度が4以上で高く学生自身も楽しく授業を受け満足していると考えられる。ただし、私語の多さについては評定平均 3.17と少し低いが、一番多い回答は「あまり多くない」で全回答中58.8%であり、私語対策についても「ある程度している」が全回答中59.3%を締めている。しかし、私語の多さ・対策について不満を持っている学生も26.6%おり、快適な授業環境構築を目指すために徹底した私語対策を行っていく。

②評価に対する教員の思い

③今後に向けての改善内容と方策

教員コメント

科目名	14052	マルチメディア制作
-----	-------	-----------

①自己評価

本科目「マルチメディア制作」の履修登録者22名のうち、出席率75%以上が6割強であるのに対し、残りの受講生は出席率3割弱と出席状況に関して両極端な結果となった。出席率の低い受講生には、2時限連続の授業形態が受け入れにくかったのかもしれない。授業評価アンケートの回答者11名は履修登録者の5割であり、アンケート結果には、出席率のよい学生の意見が強く反映されていると考えられる。本科目は「Flashコンテンツの制作」をテーマとして、各自のアイデアに基づくアニメーション制作とゲーム開発に取り組んでもらった。そのため、アイデアの元になりそうな具体的な制作事例の紹介と、各自の開発作業という2部構成になっていた。具体的な作業の中で友人同士の相談などが活発になされるケースもあり、若干「私語」を放置していた感はある（「(問11)私語対策をしていない」55%）。ある程度、制作作業に集中できる落ち着いた環境作り、という点で課題が残ったと言える。

②評価に対する教員の思い

「(問3)受講意欲がかなりある」学生が55%と半数を占め、「(問3)受講意欲がまあまあある」学生を含めると大多数(91%)であったことから、受講生の熱意に支えられて授業を進めていくことができたことに感謝したい。「(問8)学生の理解度を確認しながら授業を進めている」90%との回答であったが、後半のAction Scriptによるプログラミングでは抽象的な概念がたびたび登場し、なかなか理解しづらかったのではないかと推察する。具体的なプログラム事例を提示することで、Flashによってどのような作品を作り上げることができるのか、感じ取ってもらえれば幸いである。なかなか出席できなかった受講生が4割弱もいることは、授業評価アンケートからは読み取ることのできない無言の評価である。こうした受講生も出席してみたくなるような授業展開を考えていかなければならない。

③今後に向けての改善内容と方策

「(問12)授業に満足している」学生が80%を占めていたことは、様々な講義形式の中で自主的な作品作りを主軸とした授業展開も受け入れられるものと考えられる。ただし、Flashによる様々な表現方法を紹介しようと、多くの技法を取り上げて解説したことから、多くの受講生が「(問5)授業の難易度が高い」77%と感じたことは十分に反省すべき点である。教員側の興味・関心で突き進むのではなく、十二分に講義内容の選択をしなければならぬと判断する。さらに、受講生の理解度を確保するため、練習問題を用意すべきだったかと思う。来年度からは本科目の担当から外れることになるが、他の講義においてもここでの経験を生かし、受講生の理解度向上に取り組んでいきたいと考えている。

教員コメント

科目名	21003	英語コミュニケーションⅡ
-----	-------	--------------

①自己評価

主な評価項目を見ると、難易度については半数強が「適当である」、しかし半数弱は「難しい」、また説明が分かりやすいか否かについては7割以上が「分かりやすい」、理解度の確認については「確認しながら授業を進めている」が8割程度、私語については大部分が「多い」、しかし満足度については8割以上が「満足している」と回答していた。いろいろある中で問題となるのは何と言っても私語が多いことであろう。特にビジネス学部の学生については残念ながら際立って私語が多いと言わざるを得ない。

②評価に対する教員の思い

当然のことながら、テキストを毎回きちんと持ってきてほしい。

③今後に向けての改善内容と方策

とにかく私語が多い。確かに英文法の基礎の復習と反復が中心の内容であり、ワンパターンで面白みに欠ける点があるのは確かに否定できず、それがまた私語とテキストの不携帯につながっている点はあるかもしれないが、それにしても特に今年度のビジネス学部の学生（もちろん全員ではないが）のマナーの悪さには著しいものがある。しかし前期のⅠとは違い、後期のこの授業からは、テキストの各ユニットの各ページの内容も分量も学生にはかなり多く重たく感じられそうなぱっと見をもっと大きな文字で手短かに凝縮し、しかももとのドリル形式をさらに際立たせた形のレジュメあるいは小テスト的なものをプリントとして作成し配布し、それを解答させ、後で回収するという方式をとって見たところ、学生はそのプリントを解答しているしばらくの時間は私語をほとんどやめ、真剣に取り組む姿勢が短時間であれ見られたのはわずかながらも収穫ではなかったかと思う。そしてこの方式をさらに充実させていくことがとりあえず今のところ考えられる23年度に向けての方策と位置づけて進めていきたい。これは多くの先生が実施しているいわゆるワークシートの的なものであり、私語をとりにあらずやめさせると同時に習熟度を向上させる効果は期待できるであろうが、ただテキストがあるのに毎回このようなワークシートの的なものを作成し配布するのは、特に人数が多い場合やや負担であり、しかもここまですなければペンを持って授業に向き合おうとしない学生が多いというのもまた大きな問題であると思うが。

教員コメント

科目名	22010	教育原理
-----	-------	------

①自己評価

質問の各項目とも肯定的な回答が比較的多く、例えば「この授業は総合的に見て満足のものですか」という質問項目に対する回答が「かなり満足」と「やや満足」で90%を占めており、受講者はこの授業をそれなりに受け止めてくれたものと判断できる。ただ「授業の難易度」に関しては「適当である」という回答が1名で、その他は「かなり難しい」と「やや難しい」であり、その点に工夫の考慮の余地が残されていることを感じる。

②評価に対する教員の思い

特にない。

③今後に向けての改善内容と方策

この授業アンケートにはまったく反映されていないが、授業では内容的に一段したところで、ノート・資料を参照していいという条件の下に何回か「小テスト」を実施し、それについてはかなり詳しいコメントをつけて返却し、また全体に対して説明をした。また、「小テスト」を実施しないときは、授業の終わりに少し時間をとってその時間にとくに印象に残ったことや理解できたこと、そして質問・授業への注文を書いてもらい、それに対してできるだけ詳しいコメントを付して次の時間に返却すると共に、一般性のある質問は特に取り上げて、受講者全員に答えるようにした。それらが、「授業の難易度」に関して「難しい」「やや難しい」という回答が多かったにもかかわらず、受講者が最後までついてきてくれ、最終の試験でも全体としては好成績だったことの原因の一つかと思われるので、これらのことは更に工夫を加えながら、今後も実施してゆきたい。

2010年度

教員コメント

科目名	22052	英語(講読)(後)
-----	-------	-----------

①自己評価

このアンケートに対する回答者は履修者11名のうちわずか7名であった。主な評価項目について見ると、難易度については名「やや難しい」が2名、「適当である」が5名、説明が分かりやすいか否かについては全員が「分かりやすい」と、また満足度については6名が「満足している」と答えてくれたが、残念ながら1名は「あまり満足していない」と回答した。もともとが少人数で、すべて情報学部の学生で、しかもこの科目の2クラスある中の上級の方のクラスであったせいも、授業中は私の記憶する限り、ほとんど私語もなく、授業そのものもスムーズに進行できたと感じている。

②評価に対する教員の思い

特になし。

③今後に向けての改善内容と方策

この科目はプレースメントテストにより上下2クラスに分けられており、私は上の方のクラスを担当したが、プレースメントテストに基づいたクラス編成とは言え、そのテストはすべて記号で答える方式で内容量も少なく、内容そのものもあまりにシンプルで、学生の真の習熟度が全員についての確に把握できていたとは必ずしも思えない点があったのではないかというのが実感で、現に11名のうち2名がどう見ても下の方のクラスで受講すべき学生のように思え、またそのことを考慮した上で丁寧な指導を心がけたつもりであったが、残念ながら1名は前期不合格、1名は前期後期とも不合格という結果になった。23年度からはカリキュラムも大きく変わり、業者が作成した本格的なプレースメントテストを両学部にも、すなわち200名近くになると思われる学生を対象に実施することになっている。今まで以上に的確な、できれば100%的確な習熟度の把握につながり、学生が真に自身の習熟度に合う授業に臨めることを期待したい。

教員コメント

科目名	22053	英語(講読)(後)
-----	-------	-----------

①自己評価

前期と受講者の顔ぶれが変わらず、テキストも同じものを継続して用いたので、実質的には通年授業のようになった。このやり方には、学生が落ち着いて勉強でき、評価がしやすいという利点はあるが、どうしても中だるみや飽きにくるという問題があるようだ。前期末のアンケートに較べて、自己評価(設問1,3)、教員への評価(設問6・8,11)とも下がったのは気になる結果である。一方で、テキストに慣れてきたためか、難易度については「難しい」が減り「適当である」が増えた(設問5)。知らず知らずに力がついてきた証とも受け取れる。

②評価に対する教員の思い

相変わらず忘れ物をする学生が後を絶たない。彼らには平常点の減点を宣告し、私語にも厳しく対処したつもりである。クラスメイトの特徴や得手不得手がわかってきたせいか、授業展開はスムーズにいくようになった。こちらが想定していたグループワークをあきらめ、学生が得意な個人作業を増やしたためでもある。

③今後に向けての改善内容と方策

前期の反省を踏まえ、英作文の添削を行ったり、輪読にときどき暗記を付け加えたりしてみた。ある程度の効果はあったと考えられる。次年度に向けては、カリキュラムが大きく変わるので、授業の組み立てを考え直す必要があるが、本年の経験を生かして学生がもっと参加できる授業を作っていきたい。

教員コメント

科目名	23007	インターネット英語Ⅱ
-----	-------	------------

①自己評価

主な評価項目を見ると、難易度については「難しい」が半数強、説明が分かりやすいか否かについては「分かりやすい」が7割強。私語については「多い」が半数強、満足度については「満足している」が7割であった。ほぼ予想どおりの数字ではなかったかと思う。

②評価に対する教員の思い

やはり私語に対する苦情を述べた意見がある一方で、先生（私）は私語に対してはちゃんと注意しているというように擁護してくれるような意見もあり、とても複雑な思いであるというのが正直なところである。とにかく配布し何回にもわたって使用するプリント教材を持ってこない学生が多いことにまず苦慮していると同時に、2クラスあるうち片方は70名強、もう片方は80名強というようにこれほど履修者が多いと私語も増え、授業もやりにくくなるなど授業環境は悪化し、私語対策をと言われてもいかんともしがたいのが実情である。

③今後に向けての改善内容と方策

難易度について言えば、確かに本学の学生全般にとっては難しいという声はやや多かったのは理解できるが、電子メール英文の和訳文、単語と熟語の意味、文法、訳し方の手順、電子メール英文の各テーマに現れる表現に関連した内容の英作文の答えと解説を、学生にも随時問いかけながらすべて板書し、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで出てくる文法事項も意識しそれをいくらか土台にしつつ、大学生であれば、そしてさらに社会に出れば最低限これくらいはという内容のものは十分提供したつもりであるし、また23年度の新しいカリキュラムに移行してもこの姿勢に変わりはないつもりである。ただ、英語コミュニケーションⅡでも実行してみたところであるが、この授業でもワークシートの形式のプリントを考案することにより、大半の学生にとって難易度のやや高い点を克服しやすくしていく工夫は必要ではなかったかと思う。ただ人数が2クラスで合計150名を超えることから配布物は少なめにしたいと考えてきたが、その考え方自体を改めていくべきなのかもしれない。そして英作文についてはプリントでは英訳すべき日本語を示しただけで、本番の定期試験の時と同じ形式の穴埋め式英作文の形にしておいたなら、学生にとってもっと答えやすく難易度も多少下げることにつながったかもしれない。私語については相変わらずの状況で私の力の限界を大きく超えているのではないかとも思えるとは言え、後期試験ではこちらの予想よりもしっかりと解答してくれている学生が多かった点はやや良かったと思う。しかし23年度からはこの科目も旧科目となるため、履修者は当然大きく減少すると同時に再履修クラスの状態になっていき、履修者のレベルもダウンしていくであろうから、授業の進め方、教材の難易度の決め方にはこれまで以上に注意が必要となっていくことは間違いないであろう。

教員コメント

科目名	23055	ネットワークプログラミング
-----	-------	---------------

①自己評価

本授業では現代社会において必要なネットワークの知識とプログラミング方法を学んだ。授業内では掲示板とショッピングカートを作成し、自分の力で実際にプログラムが動くまで体験し、プログラミングの完成した際の喜びを体験したことから、授業アンケートの結果では授業への意欲が「かなりある」「まあまあある」と答えた学生が全回答学生中88.8%あり、授業の進め方としては良かった事が分かる。ただし、私語の多さについては評定平均 3.07と少し低いが、一番多い回答は「あまり多くない」で全回答中66.7%であり、私語対策についても「ある程度している」が全回答中60.0%を締めている。しかし、私語の多さ・対策について不満を持っている学生も20.0%おり、快適な授業環境構築を目指すために徹底した私語対策を行っていきたいと考える。また、アンケートで自分の理解度を深めるために小テスト実施の要求も合った。今後はレポートのみではなく小テストの実施も考える。

②評価に対する教員の思い

③今後に向けての改善内容と方策

2010年度

教員コメント

科目名	24005	TOEIC対策英語Ⅱ
-----	-------	------------

①自己評価

前期に引き続き、回収率すなわち出席率が半数以下である。前期に比べ、やや意欲がある学生が増えた印象だったが、自己評価は高くない（設問3）。内容を「かなり難しい」と感じる学生が減ったのは改善傾向だが、全体的な理解度はまだまだ物足りない（設問5）。昨年や木曜2限の同タイトルの授業（42005）と比較しても、同じだけの授業内容をこなすことが難しく、自習課題にせざるを得ない。また、息抜きの時間はほとんどとれなかった。

②評価に対する教員の思い

TOEICは世界的に認められた英語能力認定試験であり、客観的な評価基準が存在する。本学の学生のレベルに合わせて授業の難易度を下げれば、単位は取れるかもしれないが、本当の意味での「TOEIC対策」にはならない。教員はその兼ね合いに毎年苦慮している。せめて、試験対策というこの授業の特質を認識し、自分の力を伸ばしたい、試験に挑戦したいという気概をもって履修してほしいと思う。今回、真面目な学生は多かったが、チャレンジ精神という面ではやや欠ける印象があった。

③今後に向けての改善内容と方策

前期の反省を踏まえて、試験前にはリスニング部分のスク립トを配るなど、英語が苦手な学生への配慮を心がけた。PC教室の利点を生かし、教科書から少し離れて、生の英語を聞かせることも必要かもしれない。ただ、授業の内容もさることながら、カリキュラムの抜本的な改革が必要であると考えられる。配当年次を上げる、履修条件を課すなどして、学生の質を高めていきたい。

教員コメント

科目名	24053	UNIX応用
-----	-------	--------

①自己評価

当該講義はシェルスクリプトのプログラミングを中心に展開したため、過去の講義に比べて難易度が高くしてしまっただこと、また前期に開講したUNIX入門との内容の連続性が細かい部分で失ってしまったことに反省している。しかし、アンケート回答者は常に講義に参加し、講義内容を吸収しようと意欲のある学生だったため、総じて良い結果が得られたと分析している。

②評価に対する教員の思い

学生からの評価が総じて高いことについて、アンケート回答者が常に講義に参加する学生であったことに起因している。当該講義に関わらず、他の講義についても、履修者全員にアンケートを実施する枠組みを検討してほしい。

③今後に向けての改善内容と方策

受講生の多くが「(当該講義の)難易度が高い」という結果を残している。これは、受講生の多くが基礎科目であるUNIX入門を受講してから時間が経過しており、基礎部分の理解に時間を要したためととらえている。UNIX入門とUNIX応用をセットで受講するよう、履修指導を行わなければならないと思われる。自由記述にて、説明とスライド資料の切り替えが早いとの指摘を受けた。説明の速さは当該講義以外でも早いことは小生自身も理解している。当該講義はカリキュラム変更により次年度は開講されないので即座に反映できないが、他の講義には是非反映させたい。

教員コメント

科目名	24054	ヒューマンインターフェース
-----	-------	---------------

①自己評価

本授業では、人間が機械を使うときに機械を使いやすくするためのソフト・装置を設計する事を目的としている。授業が「あまり満足していない」「全く満足していない」と回答した学生が26.3%いるが、これは授業を対話型で進め最終的な設計結果と個々人の考えを聞く方法で進めたため、少し難易度が高かったと考える。最終的な結果を求める対話型だけで授業を進めるのではなく、設計の手順毎に細かく考えをまとめていくような対話型で授業を進めていくことで学生が途中で考え方をまとめきれなくなる事がないように授業を進め満足度を上げる。また、授業が「かなり分かりやすい」「やや分かりやすい」と回答した学生が79.0%いたので授業の内容としては妥当であったと考えられることから、内容は今期同様に最新のヒューマンインターフェースの設計方法と考え方を学び、引き続き理解しやすい授業を実施する。

②評価に対する教員の思い

③今後に向けての改善内容と方策

教員コメント

科目名	32009	ビジネス入門
-----	-------	--------

①自己評価

85%強の学生に受講意欲がある授業を引き受けて、結果として、70%強の学生が満足してくれた、という数字が出ている。回答者数は35名であるが、出席率が高い学生たちの回答なので、担当者としては、実態を反映したものであり――満足してくれなかった学生が3名増加しているが――総体的には、「成功」したと理解している。授業の難易度を尋ねる項目で、60%強の学生が「難しい」と回答しているが、他方で、90%弱の学生が分かりやすかったという回答を寄せくれた。テキストの内容は、担当者も自覚しているが、高度なものである。従って、すべては、それを担当者なりにいかに易しい語り口で説明できるかに掛かっていることは承知しており、それを踏まえて授業に臨んだつもりである。アンケート結果を見て、受講生たちがそれなりに理解してくれたのか、という思いがある。関連資料を随時配付して説明したこと、授業中に学生たちとの対話を心がけたこと、小テストを実施したことが功を奏したのではないか、と思っている。

②評価に対する教員の思い

私語について。担当者の授業においても私語に悩まされた。他の授業の参観に行ったときも同じような現象が見られた。授業ないしは担当者によっては私語対策(私語への注意)に追われて授業にならないということも聞いている。個人的には下記のように対応してきた。即効薬というか妙案があるわけではないしすぐに効果が出るという性格の問題ではないことはわかっているが、少なくとも、すべての教員が同一の行動を取ることを含めて、大学としての対応策を打ち出すことが求められている。

③今後に向けての改善内容と方策

来年度の授業では、今年以上に、授業中に学生に質問を投げかけ対話をより積極的に行ってみたい。また、随時小テストを実施する。あるいは、授業中に「質問用紙」を配付し質問を書き出してもらい次の週の授業でそれに対する回答を提示する。これらによって、双方向性の授業が展開されるようになり、受講生の関心がどこにあるのか、どの程度理解しているのか、等の確認ができる。それを踏まえて、より「満足できる」授業をめざす。私語対策としての意味もあり、壇上だけで講義するのではなく、受講生の座席のところまで歩み寄ってその場で受講生に質問する等の講義するスタイルを採用している。しかし、現実には、受講生が、特に、留学生が幾つかのグループに分かれて座ってしまったこともあり、私語には悩まされた。単に叱るだけでなく、他の受講生の立場に立って考えるように「誘導」するなど工夫しているが、次年度はより徹底したいと考えている。

教員コメント

科目名	32016	日本経済史
-----	-------	-------

①自己評価

履修者数19名中13名から回答を得た。他の授業の回答率を知らないので比較はできないが、昨年度の講義科目の回答率と比べるとずいぶん上がったように思う。出席は重視しないと宣言しているにもかかわらずこれだけの学生がコンスタントに出席してくれていることをうれしく思う。その要因としてアンケートの項目にはないが、できる限り学生参加型の授業形式をとったこと、教室も大教室から、定員20名の演習室に変更したことがあると思う。以下項目別に検討していきたい。まず出席率であるが、総じて良いと考える。特に毎回出席していると答えた学生が6割を超え、その他の学生もほぼ出席していた。うれしい誤算であった。理解するための工夫について、実際には質問の形で理解を深めていた学生もいたように思われるがアンケートには表れてこない。質問に対する私の回答が悪かったからなのか、学生が質問したこと自体を意識していないのかはわからない。シラバスについては第1回の授業で読み上げて説明しているにもかかわらず、読まなかったという学生が4分の1程度いる。シラバスの充実(枚数、媒体を含めて)が必要であると思う。難易度について、かなり易しい内容であったと思うが「やや易しい」以下が0というアンケートであった。これ以上内容を減らすことは無理だと思うが、伝え方といった点でより工夫が必要だろう。ただ最頻値が「適当である」であるので理解できないほどではなかったということだと思う。説明のわかりやすさについては毎年高評価をもらっている。おそらく次の話し方の項目と同じで、声が大きい、聞き取りやすいということだろうと思う。理解度を確認しながら進めているかどうかという点について、これまではこの点で評価が辛かった。今回は比較的高評価であるといつてよい。これは学生との対話の中から授業の重点を変えていくというやり方が奏功したと思われる。ただしこの方法は時間がかかり、伝えられる知識量という部分ではいわゆる一方通行の講義と比べれば相当見劣りすることは否めない。熱意についても例年同様である。自分の専門とする講義について熱意がないと感じられるとしたらそれは相当問題だろう。私語対策については留学生対応が難しかった。留学生の私語は言語上の特徴もあって、目立つ。ただ自分では意味の分からない部分を教えてもらったり、特に私からの質問に対してお互いに確認しあったりしているようにも見えるので、一概に私語を禁止しづらい気持ちになる。日本人であれば私語の内容がわかるので注意もしやすいが、留学生については私語そのものの内容は全く分からないので困る。アンケートでは「あまり多くない」「少ない」ということになっているが、これまでの私の授業の中では最も多い部類に入る。このあたりのギャップも対応を難しくさせている。私語対策については意見が分かれている。私としては「していない」といわれても仕方ないと思うぐらいだが、学生からは必ずしもそう見えないのか、私に気を使っているのか、この結果だけではわからない。満足度が比較的高いことについては忸怩たる気持ちがある。日本経済史という科目名で授業をしている以上もっと充実した内容を盛り込みたいし、深く掘り下げてみたいのだが、なかなかうまくいかない。いかに学生が満足していても私としては満足できない。

②評価に対する教員の思い

日本経済史については上記の自己評価の欄でもいくつか触れた。最大の問題は学生の満足度と大学の専門の授業として適切かどうかという点だろう。100教えて10しか受け取ってもらえないなら、最初から30教えて20受け取ってもらったほうがよいという考えもあるだろうし、マンツーマンであればそれが正解だと思うが、こと講義となれば、100教えれば40は受け取る学生もいれば5しか受け取れない学生もいる。最初から30に絞って教えることで、優秀な学生は本来受け取れるはずだった40のうち最大30しか受け取れないわけだから、機会損失である。特に留学生で優秀な学生は日本で多くのことを学んで帰りたいと考えているのに、この程度しか伝えられないというのは私としては非常に心苦しい。だからと言って授業時間外に彼らが個人的に学びに来てくれるわけではない。参考文献等を示すという逃げ道もあると思うが、それで講義の責を逃れられるわけではない。

③今後に向けての改善内容と方策

日本経済史は今回の講義方法をブラッシュアップし、学生との対話を続けながら、できる限り幅広い内容を、できる限り深く考えられる機会を提供したい。本年度の経験で留学生の関心のポイント等もある程度把握できたのでこれを生かしたい。履修人数が多くなれば別だが、30人程度までならば、演習室より一回り大きい程度の教室で、学生同士が対話できるところまで持っていきたい。そのためには予習を促す方法を考えて実行しなければいけないと思っている。

教員コメント

科目名	33011	ITリテラシー I
-----	-------	-----------

①自己評価

まず回答率の低さを問題としたい。数名の学生は出席しているにもかかわらず面倒くさいのかアンケートを提出しなかった。有効回答数が少ないためバイアスが大きすぎて分析しづらい。実習という科目の性質や再履修クラスという特殊性などをかんがみるとアンケート項目について自己評価することは難しい。自由記述欄についても私語等の欄に「大丈夫」とあるだけなので、ここではアンケートとは別に自己評価をしたい。今回は再履修クラスということで2年生から4年生までが履修していた。とにかく出席を義務付けたが、それでも出席率は上がらない。毎回出席しなければ実習の途中からの参加ということになって、対応するのに大きなロスが生じる。途中から基本的に個別対応としたが、うまくいったとは言い難い。

②評価に対する教員の思い

リテラシーとしては十分な難易度と内容を持って授業に臨んでいる。問題は出席率が上がらないこと、出席しても課題に取り組もうとしないこと、取り組んでもおざなりで提出したという形さえ取れば内容については手直ししようとしないう学生がいることである。厳密には相当数を落とさなければいけないわけだが、この授業が必修であり、4年生はこれを落としただけで留年が決まってしまうこと、他の学生にとっても負担が大きいこと、などを考えれば単位修得条件を緩めざるを得ない。なかなか厳密にはやりにくい。

③今後に向けての改善内容と方策

ITリテラシーについては来年度は担当しないが、今後担当することがあればまた別の工夫をして学生の技術の習得を助けたい。

2010年度

教員コメント

科目名	33017	競技スポーツ演習Ⅳ
-----	-------	-----------

①自己評価

履修登録人数に対して、教室の座席に余裕があったので私語対策として、座席指定にした。クラブ員だけなので、同じクラブ員同士が集団になってしゃべるのを防止するためである。授業中にしゃべることが皆無になることはなく、慣れてくると私語が出てくる。その都度、注意が必要となった。ただ、座席指定にすると名前が覚えやすいのは、利点である。

②評価に対する教員の思い

予想通りの評価であった。というのも、あまり熟慮することなく、さっさとアンケートに答えて退出していく姿は、いい評価か悪い評価か、どちらでもないかの偏った評価だろうと予測した。

③今後に向けての改善内容と方策

クラブ員は集団で受講する傾向があるが、個人になると静かな者が多いので、私語対策として、次年度も座席指定を実施する。

2010年度

教員コメント

科目名	33052	メディアと世論
-----	-------	---------

①自己評価

難易度については大きな問題がないと理解する。教員の熱意・意欲についてもある程度は伝わっているとみられる。その中で、授業中の私語対策が課題であると認識し、今後の改善に取り組む。

②評価に対する教員の思い

受講仲間の私語を迷惑と考えている比率の多さについては、履修生も自分の問題と受け止め、改善に協力してもらいたい。

③今後に向けての改善内容と方策

私語対策を含め、授業満足度をより高めるための取り組みを強めたい。

2010年度

教員コメント

科目名	34012	金融論
-----	-------	-----

①自己評価

3 「この授業に対する受講態度はどうか」で、「かなり意欲がある」(75.0%)と「まあまあ意欲がある」(25.0%)の合計が100% 6 「この授業の先生の説明は分かりやすいですか」で、「かなり分かりやすい」(75.0%)と「やや分かりやすい」(25.0%)の合計が100% 1 2 「この授業は総合的に見て満足のものですか」で、「かなり満足している」(50.0%)と「やや満足している」(50.0%)の合計が100% これらの結果から、概ね成功していたと評価して大過ないと判断する。

②評価に対する教員の思い

マイナス評価がないので、反論もない。ただ、小テストの本テストで持ち込み不可のときの出来が悪く、同再テストで持ち込み可のときは点数が上がる。この甘えが、持込不可の学年末本テストに反映し、白紙に近い答案が見受けられた。普段の授業から、わけの分からない書き写しではなく、理解を深めるよう期待したい。

③今後に向けての改善内容と方策

学生の授業時での授業を深め、確認するために、現在毎回実施している筆記のミニテストに加えて、学生を指名し、口頭で答えさせる方法を検討し、授業時の緊張感を高めるとともに、理解の確認を行っていきたい。

教員コメント

科目名	41015	現代社会と地理
-----	-------	---------

①自己評価

本講義「現代社会と地理」の履修登録者77名のうち、出席率50%以上が6割強、75%以上が4割強であった。授業評価アンケートの回答者38名は履修登録者の5割弱であり、アンケート結果には、出席率のよい学生の意見が強く反映されていると考えられる。本講義では、小中高で学んできた授業科目「地理」のイメージにとらわれずに、「地図」と「文化・文明」をテーマとして授業を進めてきた。そのため、授業内容に違和感を抱いた受講生もいたかもしれない。身近な題材を取り上げることで「(問5)授業の難易度は適当」65%と感じた受講生が過半数を占めた。ただし、「(問6)説明がややわかりにくい」と感じた受講生も1割程度おり、授業内容をいかに伝え、理解を促すのかについて考えるべき点もある。「(問10)私語が多い」と感じた受講生は36%もおり、静寂な環境を用意できなかったことが大きな問題として残る。

②評価に対する教員の思い

「(問3)受講意欲がかなりある」学生が89%と大半を占め、私語問題を除くと、受講生の積極的な受講態度によって授業しやすい環境を提供してもらえたことはありがたいことであった。ワークシートによる作図や工作、発問などを取り入れることによって、受講生の興味・関心を高めるように工夫したつもりであり、その点が「(問8)学生の理解度を確認しながら授業を進めている」69%、「(問12)授業に満足している」82%という状況につながったのかもしれない。ただし、ワークシートによる作業内容と授業内容がかならずしも密接に結びついていないケースもあり、両者をもう少し深くリンクさせるように事前の授業準備をより入念に行なうべきであった。

③今後に向けての改善内容と方策

「(問12)授業に満足している」学生が82%を占めており、配布資料による作図等の作業を取り入れた講義形態については大きな問題はないと考えている。ただし、「やや難しい」を含め「(問5)授業の難易度が高い」と感じた受講生が27%もいたことは、一般教養の教育内容としては少し難解な内容を取り上げすぎたのかもしれない。一般的な「地理」というキーワードに固執せず、各地域の文化・風習、過去から現代までの歴史的推移についてトピックス的に取り上げたことから、視点が定まらなかった可能性も考えられる。授業内容の精査・選別を入念に行なう必要がある。来年度からは本科目の担当から外れることになるが、他の講義においてもここでの経験を生かし、受講生の理解度向上に取り組んでいきたいと考えている。

教員コメント

科目名	41052	データベース演習
-----	-------	----------

①自己評価

履修者の半分が留学生であったこと、1限の講義であったことも関係してか、アンケート対象者が履修者の半数以下なのでアンケート結果の評価に苦しむが、教授者の能力を問われる項目(項目6, 7, 8, 9)に関しては総じて高い結果を得た。ただし、総合的にみて当該講義に満足しなかった学生が少数ながら存在することについては、教授者の能力のなさとしてとらえている。項目5の講義内容の難易度について、「やや難しい」と指摘された点は真摯に受け止めたい。

②評価に対する教員の思い

当該クラスの学生は遅刻や欠席が多かった。アンケート結果は(若干の遅刻はあるものの)講義を受講してきた学生の結果なので、受講生からは高い評価ととらえている。小生の関心事は、履修申告をしたにも関わらず講義に出席しなかった学生の意見なので、当該講義に関わらず、履修者全員にアンケートを実施する枠組みを検討してほしい。

③今後に向けての改善内容と方策

当該講義は座学なのか演習科目なのか不明瞭なところがあり、学生たちも困惑していたと思われる。次年度以降はカリキュラム変更により改善されると思うが、早急に改善しなければならないと思われる。

2010年度

教員コメント

科目名	42012	TOEIC対策英語Ⅱ
-----	-------	------------

①自己評価

履修者数が11名と少数で、留学生が大半を占めた。英語の基礎能力が高い学生が多く、非常に授業がしやすいクラスであった。難易度は適当からやや高めという評価だったが（設問5）、教員や授業への満足度は全体に高かった（設問6-12）。学生の理解度に合わせて、やや応用的な授業内容にも踏み込むことができた。

②評価に対する教員の思い

TOEICは世界的に認められた英語能力認定試験であり、客観的な評価基準が存在する。本学の学生のレベルに合わせて授業の難易度を下げれば、単位は取れるかもしれないが、本当の意味での「TOEIC対策」にはならない。教員はその兼ね合いに毎年苦慮している。せめて、試験対策というこの授業の特質を認識し、自分の力を伸ばしたい、試験に挑戦したいという気概をもって履修してほしいと思う。この授業の受講者にはその姿勢が備わっている者が多かった。しかし全員というわけではなかったのが残念である。

③今後に向けての改善内容と方策

前期の反省を踏まえて、試験前にはリスニング部分のスク립トを配るなど、英語が苦手な学生への配慮を心がけた。PC教室の利点を生かし、教科書から少し離れて、生の英語を聞かせることも必要かもしれない。ただ、授業の内容もさることながら、カリキュラムの抜本的な改革が必要であると考えられる。配当年次を上げる、履修条件を課すなどして、学生の質を高めていきたい。

教員コメント

科目名	42013	教職概論
-----	-------	------

①自己評価

回答数が5名、項目によっては回答が3名と少なく、その上質問の項目によっては回答がかなりばらついていて、回答から有意な何かを読み取ることはかなり難しい。そのことを前提としてあえて言えば、「授業について総合的に見て満足のものか」という項目について、「かなり満足」「やや満足」が80%、「わからない」が20%（といってもそれぞれ前者が4名、後者が1名なのであるが）というところからすれば、授業は全体としては受講者の要望に適っていたのかと判断される。しかし、「説明のわかりにくさ」や「聞き取りやすさ」などの項目では否定的回答が割合としては多く、その点からすれば決して十分な授業ではなかったことが反省させられる。

②評価に対する教員の思い

特にない。

③今後に向けての改善内容と方策

①において反省点を書いたので、その点をとくに改善する必要があるだろう。「説明をわかりやすくする」ということは、これまでもそのことに特に心がけてきたつもりであるが、さらにできる限り「専門用語」を廃して日常用語を使い、具体例を多くする（そうすることによって事柄の説明が不正確になる面があるが、それをできる限りそうならないようにしながら）などの工夫が必要であろう。また「聞き取りにくさ」に関してはできる限り声を大きくよく通るように心がけることが要求されているであろう。

教員コメント

科目名	42018	ITリテラシーⅡ
-----	-------	----------

①自己評価

有効回答者数6名と、統計的にあまり意味がない気もするのですが、有効回答者数7名の前期の「ITリテラシーⅠ（再）」と対比すると、以下のような傾向が浮かび上がります。「この授業を理解するためにどのような工夫をしていますか」との設問に対し、「先生に質問をする」（100.0%）以外は全くしていない。「この授業の先生の説明は分かりやすいですか」との設問に対し、前期の「Ⅰ」では「かなり分かりやすい」が28.6%で「かなり分かりにくい」が0.0%であったが、今回は「かなり分かりやすい」が0.0%で「かなり分かりにくい」が50.0%であった。「この授業の先生は学生の理解度を確認しながらこの授業を進めていますか」との設問に対し、前期の「Ⅰ」では「かなり進めている」が42.9%で「全く進めていない」が14.3%であったが、今回は「かなり進めている」が0.0%で「全く進めていない」が33.3%であった。

②評価に対する教員の思い

前期の「Ⅰ」ではWord中心であったのに対し「Ⅱ」ではExcel及びPowerPointと授業の内容こそ異なるものの、授業の進め方はおおむね同じであったことを考慮すると、私の授業の進め方ではなく受講学生の質が変わってきたのだと思わざるを得ません。「ITリテラシー」は必修科目であり、私はその再履修クラスを担当したわけですが、「Ⅱ」の再履修クラスは前期にも開講されていたところ、それも落としたり、すなわち1年次から数えて2回以上落としたりした学生を相手にしていたことを改めて思い知らされました。なお、難易度に関して、授業内容そのものは全クラス統一であり、私の裁量を超えていることを理解していただきたいと思います。また、私の見たところ、指定されたテキストを授業に持参していた学生は1名だけでした。テキストを持参せず、しかも遅刻してきた学生に対しても「分かりやすい」授業を期待されても困ります。

③今後に向けての改善内容と方策

以上、学生に対して苦言を呈しましたが、しかし、まさにそのような学生に対処していくことこそが教員に求められているところでもあります。何よりも基本的な学習習慣の確立、すなわちテキストを持参した上で遅刻せずに授業に出席することが肝心と思われれます。「テキストを忘れても『分かりやすい』授業」をあれこれ工夫することはむしろ基本的な学習習慣の確立を損なうことから、「テキストを忘れて遅刻・欠席をしたりしたら授業についていけない」と学生に思い知らせるべく強い態度で臨むことこそがむしろ求められているのではないかと考えられます。その一方で、それでもテキストを忘れて遅刻・欠席をしたりする学生もある程度は出るであろうことから、授業時間以外でのフォローも必要になってくるものと思われれます。そのために、リメディアル教育の充実と並んで、学生支援センターと連携を深めていくことを希望します。

教員コメント

科目名	42019	会社法
-----	-------	-----

①自己評価

コンスタントに出席する学生数が少ない。後期の授業をとおして出席学生が少ないものの、出席する学生はまじめにノートを取り熱心に講義を聴いている。授業に対する参加意欲、学習意欲が両極端である。授業はシラバスの順序でゆっくりと説明しているが、講義内容がやや難しいという評価である。難しいにもかかわらずわかりやすいと回答するものが大半であるから、学生の学習に対する積極的な取り組み教員側からすればわかりやすい授業に向けての努力が効果を上げているということができる。具体的には、少人数であるからこそできるのであるが、講義の途中でノートの取り具合を見て回ったり、レジュメを用いて視覚的に理解の手助けをするような教材を使用するということである。授業改善シートにも、講義のわかりやすさや分量につき不満を持つものが少ないことからこのことがあえる。出席学生は授業に満足している。

②評価に対する教員の思い

学生の理解度に対する配慮ということがやや問題あるようである。しかしこれに対する反省としては、全体的な学生の能力にあわせるべきであるということと、少なくとも教科書レベルのことは講義を聞いてこれを理解すべきであるという相反する二つのことを一つの場面で実現しなければならないことになり、従来から工夫はしているものの現時点では非常に困難であるといわざるを得ない。回答者の出席に対する回答につき、半分程度とするものが多い。午前中の授業ということもあるが、2限目に授業の途中で講義に出てくる者があり、これについてはやはり学生の授業や大学生活ということに対する心構えができていないということができる。教材や授業の方法につきもう少し工夫してみたい。授業改善シートでは板書が読みにくいとする者と読みやすいとする者がいて、個人的には大きな字で板書することを心がけているので、特に問題はないように思う。

③今後に向けての改善内容と方策

全体としては学生も満足しているようであり、私個人としてもわかりやすい授業と高度な専門知識に対する理解を促進するように授業を運営しているので、特に問題はないと考えている。しかしながら授業に対する参加意欲を促進するような取り組みについて、授業の方法を魅力あるものにするにはどのような講義をすればよいかということが重要な課題である。パソコンを用いて授業をするということも一つの方法であるだろうし、積極的に授業に参加させつつ、遊びでない考える授業を提供しなければならないと思う。判例研究などでは、図と言葉で事件を説明させる練習をさせることもあるのであるが、このような方法もオーソドックスではあるが考える力をつける一つの方法ではないかと考えている。

教員コメント

科目名	42020	経営史
-----	-------	-----

①自己評価

アンケートへの回答率が45.2%であるがほとんど出席しない人が14名いるので実質的には55.9%となる。また、回答者の68.8%が毎回出席しているのでこのアンケートの内容は、授業に参加する受講生の気持ちを表していると考ええる。1. 授業の内容について。毎回の授業が難しいと感じる受講生が75%もいることは私にとっては大きな問題であり、反省しなければならないが、まず、授業内容が難しいという人にお詫びしなければならない。2. 私の授業の進め方や取り組み方について。説明の仕方については、15.7%の人はかなり分かりにくいと思ひ、6.2%の人が聞き取りにくいとしているので、大いに反省したい。授業への私の熱意や、受講生の理解度を確認しながらの進め方は多くの人が認めてくれている。3. 私語について。この私語対策への私の努力を多くの人が一応評価してくれているが、71.9%の人は私語が多いと感じている。私語をさせたことを大いに反省する。

②評価に対する教員の思い

1. 授業の内容が難しいという点について。アンケートに答えた受講生の75%は難しいと感じている。しかし、難しく理解できないことを聞くために、質問した受講生が7名(21.9%)であることは、理解できないがそのままにする人が多いということだと思われるので、授業内容や質問し易い授業環境を作ることを検討しなければならない。また、資料を配付して欲しいということは、アンケートからも判明するので、今後、板書の内容とともにさらに検討したい。2. 説明が分かりにくく、聞き取りにくいということについて。今まで以上に注意して、具体的なことをゆっくりとした口調で授業を進めたい。3. 私語について。私語が多いのは、私が私語の出来ないような授業を行っていないからである。授業を聞きたくないが評価のことを考えてただ座っているだけと思われる人に、聞いて見ようというような授業をするために何らかの工夫や努力をしたいと思う。

③今後に向けての改善内容と方策

私が今後とくに注意し努力することは、前述したように私語が出来ないような授業を行うことである。そのために、話しのポイントを絞り、身近な題材を用いてゆっくりと、丁寧な説明をすることである。また、どのような理由でこの科目を受講するようになったかにかかわらず、私は、受講生にこの授業が自分の今後の人生に参考になるものであることを理解してもらいたいと思っている。なぜならば、われわれは、現在ならびに今後も企業中心の現実社会の中で、企業と共生していかなければならない。企業と共生していくためには、企業の在り方や本質についての自分の見識を持つことが必要である。この科目はその見識を持つための一方法として、温故知新の考え方により企業の歴史を勉強するものである。このように考えれば、この科目は、自己形成に役立つものであり、自分にとって身近なテーマを扱っている。このことをより多くの受講生に理解してもらえよう努力したい。

2010年度

教員コメント

科目名	42054	イラスト入門
-----	-------	--------

①自己評価

総合的にみてあまり学生からの不満は無く学生は満足したようである。授業の難易度の問いには、適当である65.5%で、やや難しい17.2%、となっており、教科書を使いながら習熟度をみて進み具合を調整したことが「適当である」との評価につながったものと考え。また学生に対して、隣近所の学生が困っていたら教えてあげる事を高く評価しており、TAのサポートと合わせて受講学生には、授業ペースで置いていかれる感覚はなかったと考える。最終的には大半の学生が、授業の最終目標としていたイラストのトレースができるようになっており、学生達が粘り強く取り組んだ成果だと思う。

②評価に対する教員の思い

アンケート結果を見る限り、学生からの強い不満や要望はみられず、授業内容にほぼ満足してくれているようなので、基本ベースは崩さずに来年度もそのまま授業を進めていきたいと思う。

③今後に向けての改善内容と方策

特になし。

教員コメント

科目名	43008	インターネット英語Ⅱ
-----	-------	------------

①自己評価

主な評価項目を見ると、難易度については「難しい」が半数強、説明が分かりやすいか否かについては「分かりやすい」が7割強。私語については「多い」が半数強、満足度については「満足している」が7割であった。ほぼ予想どおりの数字ではなかったかと思う。

②評価に対する教員の思い

やはり私語に対する苦情を述べた意見がある一方で、先生（私）は私語に対してはちゃんと注意しているというように擁護してくれるような意見もあり、とても複雑な思いであるというのが正直なところである。とにかく配布し何回にもわたって使用するプリント教材を持ってこない学生が多いことにまず苦慮していると同時に、2クラスあるうち片方は70名強、もう片方は80名強というようにこれほど履修者が多いと私語も増え、授業もやりにくくなるなど授業環境は悪化し、私語対策をと言われてもいかんともしがたいのが実情である。

③今後に向けての改善内容と方策

難易度について言えば、確かに本学の学生全般にとっては難しいという声はやや多かったのは理解できるが、電子メール英文の和訳文、単語と熟語の意味、文法、訳し方の手順、電子メール英文の各テーマに現れる表現に関連した内容の英作文の答えと解説を、学生にも随時問いかけながらすべて板書し、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで出てくる文法事項も意識しそれをいくらか土台にしつつ、大学生であれば、そしてさらに社会に出れば最低限これくらいはという内容のものは十分提供したつもりであるし、また23年度の新しいカリキュラムに移行してもこの姿勢に変わりはないつもりである。ただ、英語コミュニケーションⅡでも実行してみたところであるが、この授業でもワークシートの形式的なプリントを考案することにより、大半の学生にとって難易度のやや高い点を克服しやすくしていく工夫は必要ではなかったかと思う。ただ人数が2クラスで合計150名を超えることから配布物は少なめにしたいと考えてきたが、その考え方自体を改めていくべきなのかもしれない。そして英作文についてはプリントでは英訳すべき日本語を示しただけで、本番の定期試験の時と同じ形式の穴埋め式英作文の形にしておいたなら、学生にとってもっと答えやすく難易度も多少下げることにつながったかもしれない。私語については相変わらずの状況で私の力の限界を大きく超えているのではないかとも思えるとは言え、後期試験ではこちらの予想よりもしっかりと解答してくれている学生が多かった点はやや良かったと思う。しかし23年度からはこの科目も旧科目となるため、履修者は当然大きく減少すると同時に再履修クラスの状況になっていき、履修者のレベルもダウンしていくであろうから、授業の進め方、教材の難易度の決め方にはこれまで以上に注意が必要となっていくことは間違いないであろう。

2010年度

教員コメント

科目名	43053	データベース演習
-----	-------	----------

①自己評価

当該講義は1限と同一内容の講義を3限でも展開している。1限のクラスに比べて履修者がすくないものの、アンケート回答者数は履修者数とほぼ一致するため、履修者の意見が反映された結果が得られたといえる。教授者の能力を問われる項目(項目6,7,8,9)に関しては総じて高い結果を得た。おそらく、同一内容の説明が2回目という好条件が影響しているのだと思われる。難易度は高い項目5の講義内容の難易度について、「難しい」と指摘された点は真摯に受け止めたい。

②評価に対する教員の思い

当該クラスの学生は1限の学生に比べて日本人学生が多かったこと、少ない割には複数のグループで構成されており、私語対策に困ってしまった。小生は単位認定において各講義時間の成果を一切反映しなかったため、学生に「真面目に講義をうけなくてもいいのでは?」という錯覚に陥らせたのかもしれない。学生の怠け癖をどう改善させるかを課題としたい。

③今後に向けての改善内容と方策

当該講義は座学なのか演習科目なのか不明瞭なところがあり、学生たちも困惑していたと思われる。次年度以降はカリキュラム変更により改善されると思うが、早急に改善しなければならないと思われる。

教員コメント

科目名	44007	英語コミュニケーションⅡ
-----	-------	--------------

①自己評価

主な評価項目を見ると、難易度については半数強が「適当である」、しかし半数弱は「難しい」、また説明が分かりやすいか否かについては7割以上が「分かりやすい」、理解度の確認については「確認しながら授業を進めている」が8割程度、私語については大部分が「多い」、しかし満足度については8割以上が「満足している」と回答していた。いろいろある中で問題となるのは何と言っても私語が多いことであろう。特にビジネス学部の学生については残念ながら際立って私語が多いと言わざるを得ない。

②評価に対する教員の思い

当然のことながら、テキストを毎回きちんと持ってきてほしい。

③今後に向けての改善内容と方策

とにかく私語が多い。確かに英文法の基礎の復習と反復が中心の内容であり、ワンパターンで面白みに欠ける点があるのは確かに否定できず、それがまた私語とテキストの不携帯につながっている点はあるかもしれないが、それにしても特に今年度のビジネス学部の学生（もちろん全員ではないが）のマナーの悪さには著しいものがある。しかし前期のⅠとは違い、後期のこの授業からは、テキストの各ユニットの各ページの内容も分量も学生にはかなり多く重たく感じられそうなぱっと見をもっと大きな文字で手短かに凝縮し、しかももともとのドリル形式をさらに際立たせた形のレジュメあるいは小テスト的なものをプリントとして作成し配布し、それを解答させ、後で回収するという方式をとって見たところ、学生はそのプリントを解答しているしばらくの時間は私語をほとんどやめ、真剣に取り組む姿勢が短時間であれ見られたのはわずかながらも収穫ではなかったかと思う。そしてこの方式をさらに充実させていくことがとりあえず今のところ考えられる23年度に向けての方策と位置づけて進めていきたい。これは多くの先生が実施しているいわゆるワークシートの的なものであり、私語をとりにあえずやめさせると同時に習熟度を向上させる効果は期待できるであろうが、ただテキストがあるのに毎回このようなワークシートの的なものを作成し配布するのは、特に人数が多い場合やや負担であり、しかもここまですなければペンを持って授業に向き合おうとしない学生が多いというのもまた大きな問題であると思うが。

教員コメント

科目名	44019	アジア経済論
-----	-------	--------

①自己評価

講義内容を論理的・実証的に理解してもらうためにはどうしてもボリューム(分量)が多くなってしまいます。口述を中心とした授業では学生はノートしきれませんし、また板書中心の授業では時間が不足しがちとなります。これに対処するために、私はプリントを配付して講義を行うことにしています。なお、学生に講義に集中し、かつ要点を理解してもらうために、プリントには空白個所をかなり設け、その部分を学生に筆記してもらっています。講義全体の流れや個々の講義内容をより容易に理解できるような、そして集中力を持続して受講できるような授業をするためには、話し方や板書・プリント作成の仕方など、講義に工夫を加えていかなければならないことが多々あると思っています。

②評価に対する教員の思い

今回、授業中に私語が多いという評価がありました。授業評価でもこの点が最低評価でした。最初の授業日に私語その他に関して学生に注意を喚起し、また実際に授業中の私語に対しては注意をしてきたつもりでしたが、途中からやや甘くなってしまったきらいがあったようです。この点は反省しています。学生に対しては、遅刻をせずに毎回出席し、集中して講義を受けてもらいたいと思っています。ただし、今回は例年以上に、授業に真剣に取り組み、授業中に質問をしてくれる学生が多かったような気がします。この点は喜ばしいことと思っています。なお、「授業改善シート」の結果を受けて、この授業に関する受講生の声(意見・質問)に対する説明を授業中にある程度の時間をかけて行っています。

③今後に向けての改善内容と方策

上で述べた反省・改善点はこれからも常に心がけたいと思っています。それ以外に、学生の理解を容易にするために、毎回、講義の初めに前回の復習を簡単にするようにしています。また数年前から、持ち込み可の小テストを3回ほど行い、テストを返却した上で解説することになっています。定期試験は、この小テストから出題し、しかも事前に出題候補を絞っています。これからも学生の要望などを聞いて、授業の改善を図っていくつもりです。

2010年度

教員コメント

科目名	44052	情報ネットワーク概論
-----	-------	------------

①自己評価

当該講義は1年次生配当科目かつ木曜4限という条件下のためか、履修者が少なかった。しかし、履修者の多くは(出席点が一切ないのにも関わらず)常に出席しつづけてくれたので、回答者数がほぼ履修者数と一致する結果を得られた。このような状況で、教授者の能力を問われる項目(項目6, 7, 8, 9)が総じて高評価だったことは、教授者として努力した成果と理解したい。

②評価に対する教員の思い

マイナス評価ではないが、講義内容の難易度(項目5)でかなり難しいとの指摘を得た。1年次生向けの内容としては難易度の高い講義を展開したかもしれないが、受講生には基本情報処理技術者の出題内容であることを理解してもらいたい。小生としても、もっとわかりやすく伝える方法を探りたいと考えている。

③今後に向けての改善内容と方策

高評価であったため次年度はどのように改善すべきか悩むが、現状維持で講義を展開しつつ、学生が理解に苦しむ点をとらえる仕組みを開発したいと考える。履修者数が少なかったので演習問題を印刷した資料を配布した。これが学生の理解度を確認しながら行っていると良い評価を得た。現在、コピー用紙の枚数制限が教員一律で設定されているが、履修者数と講義数に応じた設定に変更してもらいたい。

教員コメント

科目名	44056	3次元CG
-----	-------	-------

①自己評価

総合的にみてあまり学生からの不満は無く順調であった。出席率も高く、毎回欠席者は一人か二人いるかいないか程度である。後期は、最初に各自模型を作り、それを自分で考えながら3DCGで形を製作していき、製作途中わからないことがあれば手を上げて私やTAの学生と相談しあいながら制作を進めていくやり方をとった。その評価として、授業の難易度の問いには、かなり難しい12.5%、やや難しい62.5%、とかなりの学生が難しいと感じていたようであるが、先生の説明はわかりやすいですかとの質問には、かなり分かりやすい25.0%、やや分かりやすい75.0%と、全学生がこの中に入っている為、学生は難しいなりに理解を深められたと考える。

②評価に対する教員の思い

アンケート結果を見る限り、学生からの強い不満や要望はみられず、授業内容にほぼ満足してくれているようなので、基本ベースは崩さずに来年度もそのまま授業を進めていきたいと思う。

③今後に向けての改善内容と方策

この授業は実習授業のため、授業の初回の頃にマスターすべき技術が身につけていなければ回を追うごとに、どんどんわからない部分が積み重なっていくので、ますます難しく思えてくるはずである。そのことが「かなり難しい」「やや難しい」と思う原因につながっていると思われる。そのような事にならないように学生には授業で覚えた技術は復習して次回には必ず使えるようになって欲しい。そうすることで授業はもっと専門的に深い内容まで進めることができ、結果的に学生にとってより面白い授業になると思う。